

百寿者の肖像

皆があんじょうしてくれて、
気を付けてくれるので
長生きできます

立川ミツエさん 小松島市和田島町

大正9(1920)年3月9日生まれ

102歳

100歳を迎えたとき立川ミツエさんは「こんな長う生きるとは思わなんだ」そうだが、現在102歳。視力聴力とも不自由なく、笑顔の多い表情豊かな話しぶりにこちらの生半可な「高齢者」意識は気持ち良く覆され、よどみない答えに会話が弾む。



21歳で羽ノ浦町の農家から嫁いできた。農家で左官業の夫との間に4人の息子。しかし53歳で夫が亡くなり、農業で生計を立てた。現在は息子の誉治さん、その妻・美佐子さん、孫娘の百合子さん一家の4世代7人で暮らす。

朝は7時半か8時に起きる。食べ物の好き嫌いはなく、何でも家族と同じものを食べる。あえて言えば肉より魚派。掃除や洗濯も自分で行い、シルバーカーを押して近所を散歩したり、受診に出かけたり。昨年までは畑仕事もしていたそうで、楽しみはテレビでの相撲観戦。ある時期デ

イサービスに行ったが「年寄りばかりで一週間でやめたというのもミツエさんならではの語り草だ。

健康のために特別なことはしていないというが、農作業が元気の秘訣かも、と美佐子さん。ミツエさんは「最近でこそ大げなことは出来んけど、春からはまた草抜きくらいはしようと思う」と意欲的だ。昨年次男を亡くし「親より子どもが先立つのが一番つらい」と涙した。

しかし、孫10人、ひ孫15人、やしゃ孫5人。皆が集まるとそれは賑わい、ハイハイするちびっ子たちがミツエさんにあやかろうとその膝に座る。あの子たちの元気には負けまず」とミツエさん。パワーのある言葉と生き方に学ぶことが多い。



立川家の皆さん